

情報連絡一覧票（8月）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	パ ン	酷暑のため集客はダウン傾向、店舗によってはイベント等を実施してしのいでいる状況。イベント等は今まで実施できていなかったが、こちらも各地で実施していることをマスコミ等が伝えていることもあり、実施すると効果はある。今後電気料金ガソリン代と値上げ傾向のため利益の確保には苦労している。
	酒 造	令和5年7月の清酒課税移出数量の特定名称酒は対前年比86.84%と下回った。内訳は吟醸酒81.29%、純米吟醸83.99%、純米酒82.43%、本醸酒149.11%となった。特定名称酒以外の普通酒は対前年比150.85%と上回り、合計で対前年比93.09%と前年を下回る結果となった。
	ひ も の	ひもの業界を取巻く環境は電気料金・諸資材の値上がりほか原料魚のアジ等の水揚げが少なく仕入値も高くなっていて苦しい状況である。このような状況の中での中元期売上も前年比減額となった模様。このことは諸物価の異常な値上がりで市民の生活が圧迫されたため中元贈答品としての干物も従前より購入を抑えざるをえなかったのではないかと推察する。当業界も諸物価の異常な値上がりに対処すべく干物販売単価を上げたが、結果、売上額は増加したものの反対に収益が悪化し資金繰りに苦しむ者も多かった。
	牛 乳	原料値上げにより、8月より製品値上げ（牛乳他）。
木材・木製品	家具	ウッドショック以来の木材高騰自体は鎮静化。しかし副資材・運送費などすべてが上昇している。対抗策として企業は販売価格の値上げに踏み切らざるをえないが、多くの中小企業は苦慮している。人材不足の状況にあるが、中小企業にとって、賃上げ余力は乏しいのが実情である。家具の小売り実績は、昨対を割っている。当組合では、新しい顧客開発と知名度向上を期して、6月に展示会「よこはま匠フェスティバル」を横浜市役所の後援を得て開催し好評を博した。来年6月上旬、第2回展示会開催を決定した。また、7月に技能検定実技試験（家具手加工・いす張り）を実施し、24人と多くの若者が受験した。
印刷	製 本	前年同期比では仕事量は増加したがコロナ以前と比べるとまだまだ回復はしていない。消失した仕事も多く新しい仕事を作っていく必要がある。また、製造コストの価格転嫁や人材の確保など大きな課題も抱えている。
化学・ゴム	石 油 製 品	組合員からは、「円安に起因する原材料費や荷造運賃等の値上げ分の転嫁が課題であること。採用活動は売り手市場の進展により、新卒及び中途も困難であること。収益が厳しい中、賃上げ期待もあり体質改善が必要」との情報が寄せられた。
窯業・土石製品	碎 石	猛暑の影響で工事現場の遅れがあるため、骨材の出荷が減少となっている。
鉄鋼・金属	工 業 塗 装	当社の業界分野は「航空・宇宙・防衛」であり、防衛予算の増額があり、受注は増加傾向にある。自動車産業も「半導体不足、部品不足も解消されつつあり、受注は回復しつつある」と聞いている。課題は資材の高騰を価格に転嫁できていないことである。また、景気の懸念材料としては、中国のパブル崩壊不安である。
	工 業 団 地	部品加工・制作を行うM社は補助金を活用し、工場新設。手狭になった既存工場を含む全体の生産性の向上を図り、多様化する顧客需要に応えることで売上の増大を狙っている。8月の共同受電使用量は前月比 - 0.06%となった。（前年同月比2.3%）
	工 業 団 地	原材料不足は解消方向だが、価格上昇がある。また、電気などのエネルギー価格高騰もあり仕事はあるが収益改善はない。人材の不足感（採用困難）は引き続きあり組合各社とも苦慮している。
	工 業 団 地	業種による温度差は相変わらず強いが徐々に好転はしている。ガソリンの高騰で ETC コーポレートカード利用が若干下がっている。効率的な活動をされていると思われる。
	金 属 製 品	先月同様企業の受注は減少傾向である。大きな動きは無く厳しい状況は変わらない。良い兆しが見えてこない。新しい人材確保が急務。
輸送機器	船 舶 製 造 ・ 修 理	コロナウイルス感染症の影響で停滞していた経済活動が復活し、物流が戻り海運市況が上昇。これに伴って新造船価格も上がり、マーケットは '21年を底に徐々に回復傾向に向かっている。年間海上荷動き量は2000年段階で約60億トンに対し '22年はほぼ倍の約120億トンまで成長して、今後も船舶の需要が増える事と予測されている。停滞が続いていた、造船業界にやっと明るい兆しが見えている。ただ一つ懸念は人手不足、これを如何に乗り切るかに懸かっている。
その他の製造業	工業中心の複合業種	全体では低迷状態。受注量は2〜3カ月前より減少傾向が続いている。お盆明けに受注増になっている企業もあるが、経費を考えると収益は以前よりマイナス傾向の所も多い様子。
	工業中心の複合業種	・半導体関連の動きが活発化されているが納品に時間がかかっている。 ・コロナによる生活環境の変化により、受注変化への対応が求められる。 ・価格転嫁が進みつつあり、業界全体に好転の兆しあり。 ・中国国内景気の弱含みによる影響が懸念される。

情報連絡一覧票（8月）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非製造業	菓子卸	売上は変わらず3割減が続いている。売上については7月と同様猛暑のため飲料はそこそこだが、菓子についてはあまり伸びなかったようだ。ガソリン代の高騰が問題になってきている。
	卸 団 地	売上については前年同月比で増加となったが、新型コロナ禍以前（3年前）と比較した場合、依然減収している状況。（一部企業では3年前比増収となっている）取扱商品・販売ターゲットによって業績格差が顕著に表れている。アフターコロナによる世界的な需要増とロシアのウクライナ軍事侵襲等による原油高、半導体不足・小麦不足等によって、海外調達遅延、仕入価格上昇、物流経費増加によって変動費が上昇し、収益悪化が表れている。現時点では材料等仕入れ価格の上昇、電気料と物流経費増加分を販売価格に一部転嫁実現できた企業もあるが依然中小企業の大半が転嫁することが厳しい状況。（売上先により格差がある。）物価高騰の変動費上昇分を売上転嫁できるか否か、特に中小企業の事業継続の鍵を握るものと思慮。
	リサイクル	【新聞古紙】 韓国、東南アジアからの発注量が大幅に減少しており、価格も下落傾向にある。戦争で一時ストップしていたロシア産新聞用紙のアジア向け供給が回復している影響を受け、代替生産が減少している。 【雑誌古紙】 総じて引き合いは弱いが韓国メーカーより足元の輸入品価格は割安との声が上がっており、供給タイトな状況が続けば価格上昇の可能性がある。しかし、白板紙の製品需要は低調な為、発注量の増量は難しい状況にある。 【段古紙】 依然として台湾や東南アジアのメーカー向けの価格は低調に推移している。各メーカーにおける中国向けの輸出用原紙の生産が低迷していることが主な要因であり、中国において景気減速と消費の落ち込みが顕著に表れている中、暫く生産量の回復は見込み難い。但し、足元では7月末と比べて急激な円安が進んでいる為、9月積みの問屋店頭価格は上昇する見込み。
	リサイクル	古紙市況は、国内の発生量が夏季の季節要因により減少となっているが、アジア向けの輸出については底入れが続いていたが、9月以降は上昇が見込まれているため、今後国内の古紙発生量増加が期待されている。鉄スクラップ市況は海外市場での上昇が期待されており、輸出の引き合いも増えているが、国内では夏季減産期でもあるため前年同月比で生産減少が続いている。今後は国内外で先高見通しが出始めているため、国内生産も上向きに転じることが推測されている。アルミ市況は、ドル高円安の為替市場の影響により、輸入相場が底入れしている。市中発生量も停滞しており、問屋在庫も厳しく、原材料調達で現物確保優先の動きが急速に拡大してきている。
	機 械 器 具	電気料金の上昇に続いて、ガソリンの値上げがコスト高になっている。雇用の流出の問題が起きている。インボイス制度が始まるので対応に苦慮している事業所もある。
小売業	菓 子	和菓子屋にとっていつになく暑い夏だ。
	化 粧 品	かながわpayのおかげで売上は上がったので大変よかった。ただ新規顧客が来なくて既存のお客様がまとめ買いされたので9月以降の売上が心配だ。
	電 化 製 品	猛暑が続いた夏も終わったが、平均すると夏物の中心商品であるエアコンも前年をクリアできなかった訳ではないが、シーズン途中でメーカー品切れもなく小売店にとっては販売しやすい環境ではあった。9月から残暑の続く予想だが、顧客のニーズに合った提案をして売上を図ることが重要であろうと思う。
	食 肉	牛肉、特に全体的に和牛の販売価格が高いので売れ行きが苦戦。
	青 果	8月の猛暑が葉物を痛めつけ、買物客を出無精にしたため小売りには厳しい状況であった。すいかの需要は高まったが、高値で推移し8月の末には早々姿を見せなくなった。果実の実りが早まっている様である。
	青 果	8月は全国的に台風・豪雨・高温干ばつの影響を受け、青果物全般にわたり入荷減少し相場は乱高下を繰り返し、特に下旬になり北海道産にんじん・大根等が高騰し、仕入荷揃えでは苦戦を強いられた展開であった。需要もお盆休み・夏休みで学校給食もなく、連日の猛暑続きにより業務用納品関係、一般消費者の客足悪く厳しい状況の中で販売となった。今後、異常気象による青果物の育成が心配される。総体的には高値であったため、販売量前年対比86%・売上高前年比95%であった。
	鮮 魚	猛暑による来店客の減少は大打撃であった。今年もサンマは不漁の気配なので商売に活気が戻る材料がない。相変わらず高値の価格転嫁ができていない。
	燃 料	燃料油価格激変緩和補助金の段階的縮小を受けており、特に為替相場は、円安ドル高が進展した。また、原油相場は米国や中国の景気先行きに対する警戒感などから、反落したことを映して、値下げになった。エネオスの仕切り下げは、6月8日から14日連続11週ぶり。しかし、政府による仕切り補助の算定方式の変更で、補助額は10円と7月27日から8月2日連続4週ぶりの減少となった。このため、実質仕切改定は、1円60銭の値上げとなっている。エネオスの仕切り価格は、税込み165円となっており、次週も値上げの様相である。神奈川県ガソリン平均価格は8月24日現在で、186円である。（情報センター公表）
	共 同 店 舗	2階は空店舗なし。1階は1カ所となった。コロナが5類になり契約申込があり収益が増となった。
	タ イ ヤ 販 売	原材料高騰による仕入価格の高騰で売り上げは増えているものの販売本数は横ばいか減少している為、利益は増えていない。作業工賃などのサービス部分を値上げしないと賃金上昇に結び付かない事業所が多い。コロナの影響で滞っていたアクティビティが今後増加されることにより、需要が増えることを今後期待したい。また、各県のタイヤ組合はコロナ明けということで対面での関東ブロック大会や全国青年部協議会が3年ぶりにおこなわれている。停滞していた対面での組合活動も本格的に再始動し業界の活性化を図っていきたい。
商店街	川 崎 市	今年の夏は異常なほどの猛暑だった。昨年から続いている物価高により食料品等に影響が出ている。サマーキャンペーンで1,440万円分（1,200万円販売20%プレミアム）の商品券の販売をして期間が8月末までだったが回収率は99%以上であった。各店に多少は貢献できたのではないと思う。古くから営業していた自営業店がこのところ相次いで閉店した。近日中にはテナントが入ると思うが、老舗のお店が少しずつなくなっている。
	横 浜 市	コロナ明けで人の動きが増えイベントなどもできるようになったが、人材不足で人件費が高くなり収益が上がっていない。月末コロナ患者も急激に増加している感じ（薬局）。
	相 模 原 市	7月22日・23日と上溝夏祭り4年ぶりに開催されたため飲食系は売上アップとなった。
	藤 沢 市	かながわPAYなど、キャッシュレス決済を積極的に導入している店舗を中心に約3割の店舗が前年売上をクリアしている。かながわPAYなどのスマホ決済の導入に躊躇している店舗は売上が低迷している傾向にある。手数料負担やオペレーションの煩雑さを嫌い、逆に売上を逃すというジレンマに陥っている。組合としては、トップダウン出来ず、商店街全体のイメージを落としている。最低賃金が10月以降、1,112円に改定されるため、さらに、販売価格やサービス価格に転嫁する動きがある。

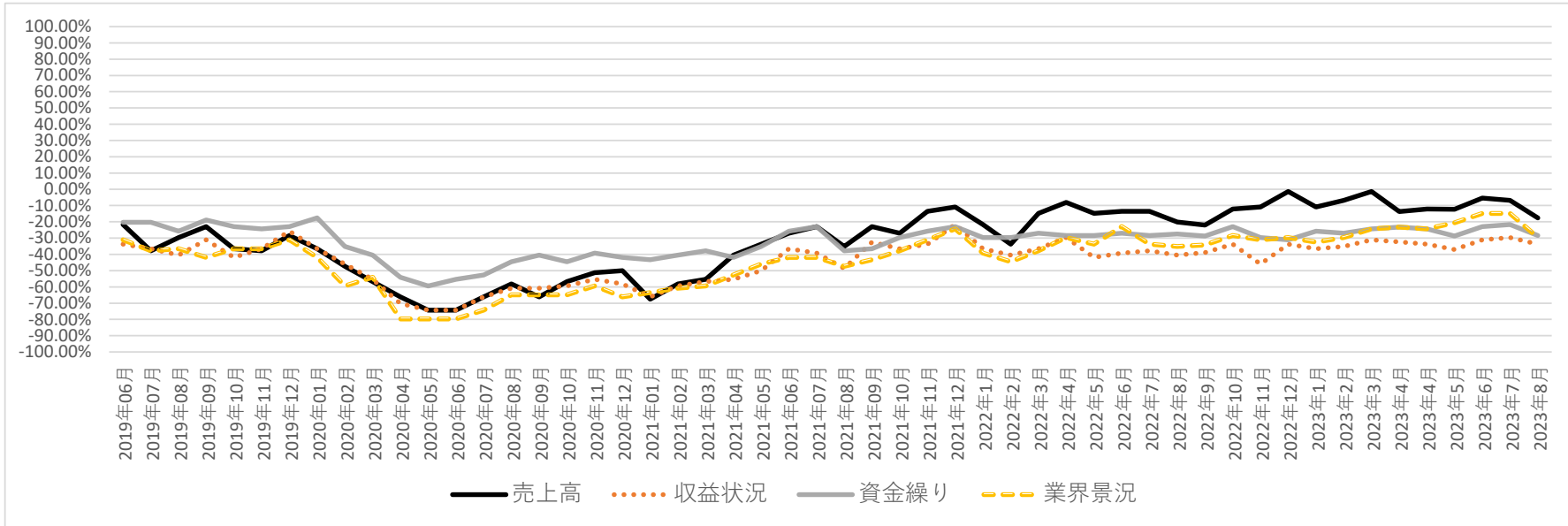
情報連絡一覧票（8月）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）									
サービス業	温泉旅館・ホテル	台風7号が8月13～15日にかけて接近したことにより、多くの施設でキャンセルが発生したが、そのまま空室になってしまった施設と、その後直撃の心配がなくなった事で再び予約が入った施設があり、明暗が分かれた。お盆以外はインバウンド客が多く、前年比では宿泊人数は減少したが、宿泊単価が上昇したことにより、売上は増加している施設が多い。									
	建 物	従事者の雇用が非常に困難となってきている。様々な情報を取り入れ人員の確保をしていかなければならない。※他業種での雇用増加が影響しており賃金の低い業種は確保しにくい。最低賃金での雇用は難しく時給1,200円以上を考えなければならない。現受単価では収益は悪化していきだろう。									
	フィナンシャルプランナー	今期準組合員が5名と新規加入者が増加している。さらに今期は新規加入者を増やすため従来の新人研修会を充実させる計画である。									
	情報サービス業	顧客に対して、インボイス制度開始後も免税事業者を活用する場合に単価UPをお願いする再協議を9月にする予定とした。顧客に単価UPを要請すると、免税事業者としての個人事業主の活用はしないと恐れられてきた。前年同月と比べると売上高は不変であるが、全体傾向としては前年より5G関連の開発が縮小している。今後の開発に備えて体制維持を継続した結果、収益は赤字となったが、前年同月の赤字幅がさらに大きかったので、数字上では好転している。5G関連開発の大幅な縮小で、当面の売上減少と収益悪化が確定的となっている。日本国内の経済情勢は明るい方向に向かっているが、為替相場の円安、物価高騰、福島原発の処理水にとまなう中国側での輸入制限などで、中長期的に見ると中小IT企業への影響が懸念される。									
	建設設計	建築業界では、資材は高値で推移している。横浜市では、中学校給食整備のためのエレベーター設置工事の設計入札の不調が見受けられる。また、職人の高齢化が進み、特に大工は今後20年で半減以下になる恐れもみえてきた。若年層の入職も長時間労働・給与水準の低さにより困難な状況が続いている。その他、小規模な改修計画は随時公表されている。									
	柔道整復師	5月分の対前年同月比の総請求金額が出た。やはり前年を上回ることなく、93.5%の結果となった。さて、先月より神奈川県より物価高騰による医療機関等の光熱費等に対する支援が始まり、多くの会員がこの申請を出した。支援は3万円である。ありがたいことだが、現状を維持するのが厳しい施術所が多くなってきている。やはり柔道整復師国家試験漏洩問題の影響があるのか、それにも増してこのかつてない猛暑の影響と熱中症予防のために外出を控えるような報道もされるためもあるのだろう。いずれにせよ接骨院への来院者数は昨年に比べて減少傾向が続いており、しかも保険の請求に対する縛りが強くなってきており、このため請求しづらい保険取扱いからの脱却を図り、自費診療に鞍替えする組合員が増加している。昨今、確かに日本古来より存在する伝統的なものがかなり減少してきている。とはいえ、なくしてはならないものもやはり存在する。この業界も現代的な治療をとり入れる一方、伝統的な技術を伝承してゆく必要もある。学術的な理論武装、超音波骨観察装置を使用し、より科学的な施術が行えるようになってきていはいはるものまだ総体数が少ない。継続的な努力はするが、いかにせよさらなる支援策が講じられなければ、自分達の手だけで再生を図ることは容易ではないことが明白となりつつある。									
	自動車整備業	車体整備業界をあげて、団体交渉のスキームを構築中。									
建設業	管 工 事	猛暑続きの8月、生活に押し寄せる物価高とともに、当業界にのしかかる材料の高騰に人手不足も加え、この暑さ以上に体に応え、頭の痛い日々が続いている。民間投資における売り上げはプラスになっても取引価格が追い付かず、公共工事でも時期的に発注件数も少なくなってきた。景況好転による収益もまだ十分とは言えない。									
	電 気 工 事	元請からの減額。人手不足。									
	空調設備工事	9月・10月からの材料費高騰分についての価格（発注額）再検討、追加工事での追加金額依頼をしているが、なかなか現状は厳しく、うまい具合予算が残ってれば対応してくれる会社もあるがまだまだ厳しいコメントばかりで苦戦しているのが現状だ。そのために利益減少しており厳しい状況が続いている。									
	量 工 事	コロナ禍緩和により仕事に期待したが減。諸物価上昇例年にならぬ猛暑にもよると思う。レジャー・旅行などに金が流れ、量の方へは流れない。9月になり暑さが落ち着いてくれれば、10月には当組合主催、量替キャンペーン・量材料展示会がある。									
運輸業	道 路 貨 物	地方から関東向けの荷物が減少しているため、関東から地方向けの返路便の確保が難しくなってきた。設備投資が低調なため長距離の輸送及び機械製品の輸送が大幅に減ってきている。また、燃料補助金が減った燃料は先月に比べ大幅に高くなっており、益々事業者の収益を圧迫している。働き方改革で待ち時間の削減が急務となっているが、重量・超大物を輸送する事業者は道路法の規制により夜間の運行しか出来ない条件が付く場合も多く、早朝（6時前）到着しても作業時間が始まるまで待機することや、荷物を卸して空車になっても、夜中（21時）まで待機しなければならないため、960時間を守るのが難しい状況となっており、道路法そのものや休息・休憩時間の考え方等法律の見直しが必要となっている。									
	道 路 貨 物	<table border="0"> <tr> <td>地場輸送</td> <td>前年同月比</td> <td>+10%</td> </tr> <tr> <td>長距離輸送</td> <td>"</td> <td>△20%</td> </tr> <tr> <td>海上コンテナ輸送</td> <td>"</td> <td>△15%</td> </tr> </table> ・燃料価格の度重なる上昇により、非常に厳しい経営を強いられている。	地場輸送	前年同月比	+10%	長距離輸送	"	△20%	海上コンテナ輸送	"	△15%
	地場輸送	前年同月比	+10%								
長距離輸送	"	△20%									
海上コンテナ輸送	"	△15%									
タ ク シ ー	一見タクシー業界は好景気に見えるが、人材不足の為、休車が多く、稼働状況が悪化し、旅客利便が損なわれている。また、燃料費高騰が経営に影響している。										
その他の非製造業	歯 科 技 工	8月初旬は受注量も増え売上は増加していたが、猛暑と例年より長めの夏休みが関係したのか収益は前年同月並みとなった。日本歯科技工所協会の紙媒体およびインターネットのアンケートによると9割の歯科技工所が1年以内に料金の値上げを考えている。社員の平均年収は「401万～450万」34.0%が最多で、「351万～400万」が31.9%、「301万～350万」23.4%「451万～500万」8.5%、「300万円以下」2.1%となっていた。82社に対して行い、52社から回答を得た。（回答率63.4%）									
	不 動 産	燃油費の高騰が営業活動に大きく影響している。									
	質 屋	前月までは年初より続く社会の景況感の向上で質や営業も活発になってきたところだったが、8月に入ってから猛暑続きで外出を控える人が多かったところもあり、レジャーや外食を控えた人が多かったのか、質屋営業も閑散としていた。									

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	パ ン	物価高、電気料金、ガス料金、ガソリン代等のインフラ料金の上昇に対する補助金をお願いしたい。
食料品	ひ も の	中小企業者の苦しい経営実態に即したきめ細かい助成策を希望する者が多い。
化学・ゴム	石 油 製 品	電気料金やガソリン代の値上げに対する補助金等の施策を依頼したい。
その他の製造業	工業中心の複合業種	・原材料、石油価格高騰への対策を講じて欲しい。 ・中小企業での賃金引上げに向けた支援策を講じて欲しい。
卸売業	卸 団 地	・物流費・光熱費等の仕入れコスト上昇に対する支援を引き続き、継続的に長期的かつ幅広く対応を願いたい。 ・インボイス制度導入（国税庁）、電子帳簿保存法改正対応（国税庁）、道路交通法改正による全業種運転者のアルコールチェック義務化（警察庁）等行政による生産性の乏しい事業者管理業務のみを強化している感が否めない。それによる事業者コストをよく考え、必要以上の締め付けに対しては、緩和できる柔軟性を求めたい。例）インボイス→軽減税率の廃止・消費税率統一、アルコールチェック→業種制限を設定、電子帳簿保存→紙保存、データ保存の選択制も可とする。等
商店街	横 浜 市	イベント援助と人件費やガソリン代の対策をお願いしたい。
運輸業	道 路 貨 物	トリガー条項凍結の解除（暫定税率の廃止）をお願いしたい。
その他の非製造業	不 動 産	燃油費の高騰が営業活動に大きく影響している。自己破産が相変わらず増加。家賃滞納のまま自己破産が多く見られるため行政庁へ家賃給付を求める。



























中小企業団体景況グラフ(全業種の主要項目)



本調査は、神奈川県中央会が委嘱した情報連絡員の役職員74名による調査結果です、調査対象は、情報連絡員は所属する組合の組合員「全業種」の景況（前年度同月比）です。

景況天気図(前年比)

(2023年8月)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
全体	-17.6 %	15.2 %	33.8 %	-8.1 %	-33.8 %	-28.4 %	4.8 %	-23.0 %	-29.7 %
									
製造業	-9.5 %	23.8 %	52.4 %	0.0 %	-38.1 %	-38.1 %	4.8 %	-23.8 %	-14.3 %
									
非製造業	-20.8 %	8.0 %	26.4 %	-11.3 %	-32.1 %	-24.5 %	%	-22.6 %	-35.8 %
							-		

天気図の見方・・・・・・各景況項目について「増加」（または「好転）」業種割合から「減少」（または「悪化）」業種割合を引いた値（KJI）をもとに作成。その基準は次の通りである。ただし、在庫数量はKJI値プラスの時には雨、マイナスの場合には晴れの方に著した。KJIとは、「神奈川県情報連絡員調査指数」の略である。

快晴	晴れ	くもり	雨	雪
				
30以上	10～30未満	10未満～△10	△10未満～△30未満	△30以上

神奈川県中小企業団体中央会